

第34回軽金属セミナー

「アルミニウム合金の組織—応用編（加工・熱処理による組織変化）」（第2回）

アルミニウム合金の「加工・熱処理工程における組織変化」を学んでいただくセミナーです。
カラーテキストおよびPPTを用いて、わかりやすく講義します。

一般にアルミニウム合金は、溶解・鋳造工程、均質化処理、塑性加工（熱間加工、冷間加工）、熱処理工程を経て製造され、これらの工程で金属組織が大きく変化し、材料特性に影響を及ぼします。軽金属学会では、入門編として、金属組織の基本である状態図の読み方、上工程の溶解・鋳造工程における組織、および均質化処理における金属組織の変化を取り上げ、次いで中級編で、アルミニウム合金の時効析出現象について詳しく解説しました。一方、最終製品に特性を付与するためには、アルミニウム合金の塑性加工、熱処理工程での金属組織変化についての理解を深めることも重要になります。そこで、応用編として、実用アルミニウム合金の機械的特性と組織、加工組織および回復・再結晶組織、さらに結晶集合組織の読み方を取り上げて、わかりやすく講義します。

実用合金の金属組織を理解する必要性を感じている若手や、金属組織に関係する問題を抱えている中堅の技術者・研究者の方々のご参加をお待ちしております。なお、基礎的な理解を深めるため、日本アルミニウム協会ホームページ内のアルミの基礎知識 (<http://www.aluminum.or.jp/basic/index.html>) を事前にご一読いただければ幸いです。

また、応用編を受講される方には、第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」と33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」の受講も合わせてお勧めします。入門編は平成29年3月3日早稲田大学にて開催予定、中級編は平成29年1月27日キャンパスプラザ京都にて開催予定です。なお応用編の次回は、平成29年6～7月関西地区開催予定です。

非会員の方は、これを機に一般社団法人軽金属学会（正会員年会費8,000円、入会金なし）への入会をお勧めします。

主催：一般社団法人軽金属学会

協賛：日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本材料学会、日本機械学会、日本鋳造工学会、日本塑性加工学会、軽金属製品協会、軽金属溶接協会、自動車技術会、日本ダイカスト協会、溶接学会、粉体粉末冶金協会、日本顕微鏡学会

日時：平成29年3月10日（金）10：00～17：00

場所：名古屋大学 環境総合館レクチャーホール（名古屋市千種区不老町）

交通：名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学駅」2番出口 徒歩3分

参加費：正・維持会員 8,500円 学生会員 1,000円 非会員 25,000円 学生非会員 6,000円（協賛学協会員は会員扱い）

定員：40名

申込先：軽金属学会ホームページ (<http://www.jilm.or.jp/>) 上部コンテンツ「シンポジウム・セミナー参加申込」からお申込みください。

問合せ先：一般社団法人軽金属学会（〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-15 Tel (03) 3538-0232 Fax (03) 3538-0226）

郵便振替口座番号：一般社団法人軽金属学会 00100-3-66805

プログラム：

挨拶（10：00～10：05）

1. 「実用アルミニウム合金の組織と機械的特性」（10：05～11：55） （一社）日本アルミニウム協会 大瀧 光弘
各種製品の用途に応じて要求特性が異なるために、実用アルミニウム合金では合金成分だけでなく、製造条件（加工条件、調質）を変えて対応しています。その製造工程における金属組織変化の事例を紹介して、各種特性に及ぼす金属組織の影響を解説します。
2. 「アルミニウム合金の塑性変形と加工組織、回復再結晶組織」（13：00～14：50） 茨城大学教授 伊藤 吾朗
アルミニウム合金では、塑性加工(塑性変形を利用した加工)とその後の熱処理により、金属組織が変化し、特性が大きく変わります。ここでは塑性変形により形成される加工組織、その後の熱処理により形成される回復・再結晶組織について、基礎的に解説します。
3. 「アルミニウム合金の集合組織」（15：10～17：00） 元東京大学 関 史江
金属材料は加工・熱処理工程により結晶配向が変化して、材料特性が変わる事が知られています。そこで結晶配向を理解するために、アルミニウム合金を例にとり、結晶集合組織表示の仕組みと基本的な読み方を説明します。

（世話人：横浜国立大学 廣澤渉一、(株)UACJ 水越秀雄、小林美智男、(株)TYK 大島智子、三協立山(株) 山田公一）